

第15回統合協議会で出された校歌・校章に関する主な意見

◎校歌・校章・歴史を考えていく上での基本的な視点

⇒ 現在の子どもの立場に立って考える。

1 校歌について

(1) 新しい校歌をつくる

- ① 校名を決めた際に、地域の学校としての新しい学校「永福小学校」として理念がある。その理念を考えると、校歌・校章も新しいものに変るべきである。
- ② 校歌・校章を新しくしないと周囲は「統合」と思わない。
- ③ 統合に向け子どもたちの意識付けが必要である。
- ④ 現永福小校歌は60年前の環境を歌ったもので現在の環境とは違う。
- ⑤ 歌詞のイメージについて
 - ・今の学校環境に応じた内容で新たにつくる。
 - ・昔のイメージも保ちつつ、昔があったから今があり、未来につながっていくというような視点も大切にする。
- ⑥ 作成方法について
 - ・基本的に作曲はプロに依頼する。歌詞は両校の子どもたちの意見を取り入れ、プロが補作する。
 - ・作詞・作曲ともプロに依頼する。

(2) 新しい校歌をつくらない

- ① 永福小校歌は60年前の環境を歌ったものであるが古いものを残していくことも大切である。
- ② 永福南小校歌は子どもたちにわかりやすい言葉である。
- ③ 両校とも校歌を新しくすることに対して地域の納得が得られないのではないかと。
- ④ 両校とも今の校歌に愛着がある。
- ⑤ 両校の校歌を継承する。
 - ・既存の両校校歌を第一校歌・第二校歌とする。
 - ・校歌とは別に、子どもたちに加わってもらって「みんなの歌」をつくる。

2 校章について

(1) 新しい校章をつくる

- ① 校名を決めた際に、地域の新しい学校としての「永福小学校」とした理念がある。その理念を考えると、校歌・校章も新しいものに変えるべきである。
- ② 校歌・校章がそのままだと周囲は「統合」と思わない。
- ③ 統合に向け子どもたちの意識付けが必要である。
- ④ 具体的な校章のイメージについて
 - ・現在の両校の校章をクロスさせるイメージでデザインする。
 - ・教育目標をイメージできるデザインにする。
 - ・上記2つを取り入れたものにする。

(2) 新しい校章をつくらない

- ① 統合の象徴としての役割を担わせ、子どもたちの意識付けを高めることはコミュニケーションマークを作成することで十分に達成される。
- ② 区の財政状況が逼迫する中、校章を変えることにコストをかけることは問題である。
- ③ 校章を変えることに地域の理解が得られないのではないか。
- ④ コミュニケーションマークを作成し、現在の校章と併用する。公式行事(入学式、卒業式等)では校章を使用し、それ以外はコミュニケーションマークを使用する。

3 コミュニケーションマークについて

- ① 子どもたちの参画によりコミュニケーションマークを作成することは、統合にむけての意識が高まる。
- ② 校章とコミュニケーションマークは別として考えるべきである。

4 歴史について

- ① 25年度を統合1年目とする。
- ② 地域の学校としての歴史を引き継ぎ、25年度は62年目とする。
- ③ 25年度を統合1年目とするなら校歌・校章は新しいものにすべきだし、校歌・校章を引き継ぐなら25年度を62年目と考えるべきではないか。